

2006 年度

科目名 ゼミナールⅠ	対象学科・学年 教育教福3回生	担当者 小谷 卓也
授業テーマ 教員としての理科の授業実践力と、理科教育に関する研究の基礎的な能力の習得		
授業の概要と目標 年間目標として、子ども達が、自然や科学でどのように「遊び」ながら、それを楽しく「学び」へと転換させていけるのかを考えます。前半は、教育実習に向けて、保育内容(環境)や生活科・小学校理科の授業構成や、教材開発の視点といった教師として必要な実践的な能力を習得することを目標に、教科書の単元内容研究や学習指導案の作成などを行っていきます。 また後半は、卒業研究に向けて自らの研究テーマを決定するために、理科教育に関する理論を文献から学んだり、外国の理科教科書の実験・観察を実際にやりながら新たな教材開発に挑戦したりします。テーマ決定後、そのテーマに関連した文献を読んで発表していきます。そして最後にこれまでの成果をまとめ、自分の研究へとつなげていきます。		
評価方法 授業の出席時間数、課題への取り組み、レポート、研究発表、ゼミへの貢献度などによって、総合的に評価します。		
テキスト 各自の関心に基づいて、相談のうえ文献や資料を決定します。	著者	出版社
参考書 必要に応じて紹介します。	著者	出版社
[授業スケジュール・内容] 多少の変更はあるかもしれませんが、基本的には下記の要領に従って授業を進めていきます。		
	学習項目	学習内容
第1回	卒業研究の年間計画の立案	自らの研究課題に対し、年間を見通した長期の計画を立てる。
第2回	調査(実験)計画の立案(1)	実行可能な調査(実験)計画を立てる。
第3回	調査(実験)計画の立案(2)	立案された調査(実験)計画をもとに、物的・人的準備を行う。
第4回	調査(実験)の実施(1)	関係機関と協力し、自らの研究課題について調査(実験)を行う。
第5回	調査(実験)の実施(2)	関係機関と協力し、自らの研究課題について調査(実験)を行う。
第6回	調査(実験)の実施(3)	関係機関と協力し、自らの研究課題について調査(実験)を行う。
第7回	調査(実験)の実施(4)	関係機関と協力し、自らの研究課題について調査(実験)を行う。
第8回	調査(実験)の実施(5)	関係機関と協力し、自らの研究課題について調査(実験)を行う。
第9回	調査(実験)の実施(5)	関係機関と協力し、自らの研究課題について調査(実験)を行う。
第10回	調査(実験)の実施(6)	関係機関と協力し、自らの研究課題について調査(実験)を行う。
第11回	調査(実験)の実施(7)	関係機関と協力し、自らの研究課題について調査(実験)を行う。
第12回	調査(実験)結果の整理(1)	調査(実験)の結果得られたデータを、表やグラフを用いて整理する。
第13回	調査(実験)結果の整理(2)	調査(実験)の結果得られたデータを、表やグラフを用いて整理する。
第14回	データ分析(1)	調査(実験)の結果得られたデータを、適切な手法を用いて分析する。
第15回	データ分析(2)	調査(実験)の結果得られたデータを、適切な手法を用いて分析する。
第16回	データ分析(3)	調査(実験)の結果得られたデータを、適切な手法を用いて分析する。
第17回	データ分析(4)	調査(実験)の結果得られたデータを、適切な手法を用いて分析する。
第18回	研究結果の考察(1)	データの分析結果を考察し、明らかにになったことをまとめる。
第19回	研究結果の考察(2)	データの分析結果を考察し、明らかにになったことをまとめる。
第20回	研究結果の考察(3)	データの分析結果を考察し、明らかにになったことをまとめる。
第21回	研究結果の考察(4)	データの分析結果を考察し、明らかにになったことをまとめる。
第22回	研究結果の考察(5)	データの分析結果を考察し、明らかにになったことをまとめる。
第23回	卒業論文の作成(1)	これまで部分的に文章化してきた研究成果を統合し、1つの論文にする。
第24回	卒業論文の作成(2)	これまで部分的に文章化してきた研究成果を統合し、1つの論文にする。
第25回	卒業論文の作成(3)	これまで部分的に文章化してきた研究成果を統合し、1つの論文にする。
第26回	卒業論文の作成(4)	これまで部分的に文章化してきた研究成果を統合し、1つの論文にする。
第27回	卒業論文の作成(5)	これまで部分的に文章化してきた研究成果を統合し、1つの論文にする。
第28回	研究成果の発表(1)	卒業研究の成果を、他者に発表する準備を行う。
第29回	研究成果の発表(2)	卒業研究の成果を、他者に発表する準備を行う。
第30回	卒業研究成果発表会	卒業研究の成果を互いに発表し合い、討論する。